

# 市内遺跡1

一八幡平遺跡・向山遺跡・小峰遺跡・安中17号墳

2012

群馬県安中市教育委員会

# 市内遺跡1

一八幡平遺跡・向山遺跡・小峰遺跡・安中17号墳

2012

群馬県安中市教育委員会

## 例　　言

- 1 本書は安中市が実施した市道建設工事に伴う八幡平遺跡における発掘調査（平成3年度）の成果と宅地開発に伴う遺跡範囲確認調査及び工事立会調査（平成22・23年度）の成果をまとめたものである。なお、付録として小規模開発に伴う遺跡範囲確認調査を実施した向山遺跡（遺跡略称：F-6）、小峰遺跡（遺跡略称：D-25）、個人住宅工事に伴う発掘調査を実施した安中17号墳（遺跡略称：D-27）の調査概要を併せて報告する。
- 2 遺跡名：八幡平遺跡（遺跡略称C-7・C-24）
- 3 遺跡の所在地：安中市篠瀬字八幡平地内
- 4 確認調査経費の一一部については、「市内遺跡発掘調査事業」として国庫補助金及び県費補助金の交付を受け実施した。八幡平遺跡の発掘調査（1次）、報告書作成は、市費で実施した。
- 5 確認調査及び発掘調査・報告書作成は、安中市教育委員会が主体となって直営で実施した。  
発掘調査担当者 平成3年度1次調査（C-7） 千出茂雄（当時社会教育課文化財係主事）  
平成22・23年度2・3次調査（C-24） 井上信也（学者の森文化財係主事）・  
菅原龍彦（同主事）
- 6 資料整理担当 平成23年度 井上・菅原
- 6 本書の編集は井上が行い、執筆は井上（I・II・III-1・IV-2、付録1・2）・菅原（III-2・3、IV-1、付録3）が行った。
- 7 遺構の写真撮影は各担当者が行った。遺物の写真撮影は、壁 伸明（同行政嘱託）が行った。
- 8 発掘調査の記録、出土遺物は安中市教育委員会が保管している。
- 9 確認及び発掘調査、遺物整理の期間中、多くの方々にご指導、ご協力をいただいた。記して感謝の意を表します。

## 凡　　例

- 1 遺構の実測図は1/80を基本としたが、遺構の大きさにより1/100、1/120、1/160、1/400とした。
- 2 遺構岡山の北マークは磁北である。  
本文中に使用した地図は国土地理院発行の2万5千分の1地形図「當岡」、安中市都市計画図（1/2500）である。
- 3 遺構実測図の縮尺は、次のとおりである。  
塙輪・土塙・瓦：1/4 形象地輪：1/8 鉄製品：1/3 玉：1/2
- 4 土層説明巾での記号、略称は次のとおりである。  
土層名称及び量の基準：『新版標準土色帖』による。  
色調<：より明るい方向を示す（暗く明）  
しまり、粘性 ◎：あり ○：ややあり △：あまりない ×：なし  
混入物の量 ◎：大量（30～50%） ○：多量（15～25%） △：少量（5～10%）  
※：若干（1～3%）  
混入物 R P：ローム敷土（溶け込んだ状態） R B：ロームブロック（固まりの状態） Y P：  
板岩黄色難石
- 5 基本層位（共通） I a層：黒褐色土層（浅間AあるいはB軽石含む）、I b層：灰白色軽石層（浅  
間A軽石純層）、II a層：黑色土層（浅間B軽石含む）、II b層：灰褐色軽石層（浅  
間B軽石純層）、III層：黒色土層（弥生～古代）、IV層：灰褐色土層（縄文）、V層：  
暗褐色土層（ローム層）、VI層：黄褐色軽石層（As-YP層）

## 目 次

### 例言・凡例・目次

I 調査に至る経緯と経過 .....	1
II 遺跡の地理的・歴史的環境 .....	2
III 遺構と遺物 .....	5
1 調査の概要 .....	5
2 遺構 .....	14
3 遺物 .....	14
IV 成果と問題点 .....	15
1 K-3号古墳について .....	15
2 八幡平陣城について .....	15
付編1 向山遺跡の確認調査 .....	16
付編2 小峰遺跡の確認調査 .....	18
付編3 安中17号墳の発掘調査 .....	20

### 写真図版

### 抄録

## 挿図・表目次

第1図 調査遺跡の位置と周辺遺跡分布 .....	3
第2図 八幡平遺跡のトレンチ・遺構配置図 .....	4
第3図 八幡平遺跡 市道部分遺構実測図 .....	7
第4図 八幡平遺跡 3・5トレンチ遺構実測図 .....	8
第5図 八幡平遺跡 7・8トレンチ遺構実測図 .....	9
第6図 八幡平遺跡 11・12トレンチ遺構実測図 .....	10
第7図 八幡平遺跡 K-3号古墳全体図 .....	11
第8図 八幡平遺跡 K-3号古墳遺物実測図(1) .....	12
第9図 八幡平遺跡 K-3号古墳遺物実測図(2) .....	13
第10図 八幡平遺跡と関連遺跡 .....	15
第11図 向山遺跡 遺構実測図 .....	17
第12図 小峰遺跡 遺構・遺物実測図 .....	19
第13図 安中17号墳 全体図 .....	22
第14図 安中17号墳 石室実測図・遺物実測図 .....	23
第1表 八幡平遺跡 遺物觀察表 .....	13

## I 調査による経緯と経過

### 平成3年度

平成2年10月、安中市産業部商て観光課及び土地改良課（当時）より、市史跡八幡平首塚の駐車場及び道路建設工事にかかる埋蔵文化財の照会があった。開発予定地には、周知の遺跡である八幡平首塚と築瀬二子塚古墳が存在していたため、これらの遺構に当たる可能性があると回答した。その後、計画変更を含め、再三協議を行ったが、首塚への進入路の確保と見学者のための駐車場の必要性から、発掘調査を実施し、記録保存を講ずることになった。発掘調査は、平成3年9月10日から10月9日までの間、実施した。

### 平成21年度

携帯電話基地局建設工事に伴う確認調査：平成20年9月、株式会社NTTドコモ群馬支社より、工事予定地内における埋蔵文化財の照会があった。該当場所は、中世の八幡平神域内であることから、開発者側と工事区域内における埋蔵文化財の取り扱いについて協議し、平成21年3月、確認調査を実施することになった。平成21年3月、必要書類（法93条届出）が提出された。平成21年4月9日、トレンチによる確認調査を実施したが、遺構・遺物は確認されなかった。（真風工事の措置となつた）。

### 平成22年度

分譲住宅造成（1期）に伴う確認調査及び工事立会：平成22年3月25日、株式会社高橋ハウジング（以下開発者）から地域開発事業計画書が安中市地域開発対策委員会へ提出され、土地分譲造成事業予定地の埋蔵文化財の状況についての照会があった。該当場所は周知の埋蔵文化財包蔵地内で築瀬二子塚古墳の隣接地であることから、開発については当教育委員会と協議が必要であることを意見書を通じて回答した。その後も開発計画自体の変更及び見直しについて、開発者側と協議を続けたが、既に土地を取得し、開発計画の許可も下りていることから、見直しは困難であることから、事前に分譲予定地内の埋蔵文化財の有無と性格を把握するための確認調査を実施することで、開発者側と合意した。平成22年4月21日、開発者側から確認調査の依頼、必要書類（法93条届出）が市教育委員会へ提出された。平成22年4月23日、市教育委員会は、群馬県教育委員会と開発計画に対する今後の対応について協議し、計画に先立ち、5月に遺跡の範囲辨認調査を実施することになった。平成22年5月10日～14日、確認調査を実施する。二事予定地内で築瀬二子塚古墳の西側で古墳の周溝、八幡平神域に残存する遺構が発見され、確認調査の結果を開発者側へ伝えた。平成22年5月17日、開発者側と埋蔵文化財の取り扱いについての協議を行い、その内容について覚書を交わした。工事計画地の変更是困難であったが、開発地全域に盛土を行う造成であることから、確認された遺構までの保護層が保てる見通しとなったため、基本的には、現状保存の措置を講ずることになった。ただし、今後、工事によって遺構への影響を被る可能性がある部分（道路他）については、市教育委員会が立ち会うことに対応することになった。なお、住宅分譲地部分については、その都度、工事に先立ち発掘権を提出することになった。平成22年10月14・15日、工事によって掘削する南側道路の側溝部分の工事立会を実施した。南側道路の北半分はすでに市史学術調査でトレンチ調査を実施してたため、対象から除外した。立ち会いの結果、7トレンチで確認された古墳の続き（周溝と墓石）が発見され、工事によって保護層及び現状保存が、計れない部分についての発掘調査を実施し、記録保存の措置を講じた。他の工事予定地については、盛土等による現状保存が計られ

たため、工事の状況のみを確認した。

**個人住宅に伴う工事立会：**2月2日、5月に確認された占墳の周溝外側にあたる部分について工事立会を実施した。一部範囲で縄文時代遺物包含層まで掘り下げたが、遺構、遺物は確認できなかった。

平成23年度

**個人住宅に伴う確認調査：**首塚占墳北側で6月3日に実施した。調査は、南北方向のトレチを2ヵ所設定し、周溝の確認を行ったが、遺構、遺物は確認できなかった。遺物包含層までの深さが厚く、工事による影響が少ないので、慎重工事の措置とした。なお、計測地内には、市史5Bトレチ（遺構・遺物なし）がある。

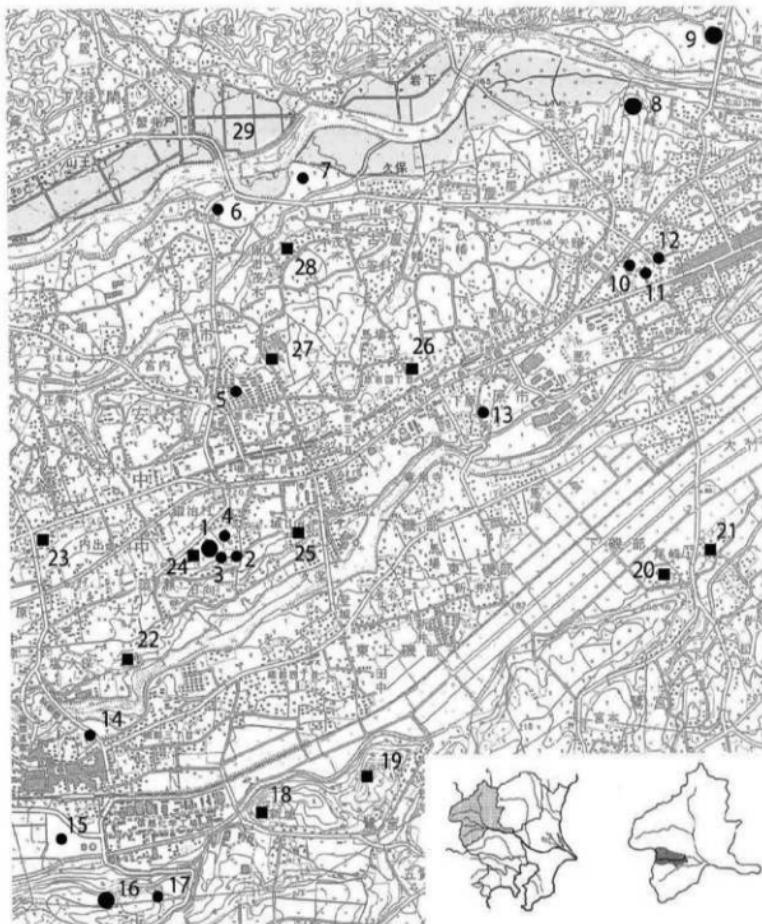
**分譲住宅造成（2期）に伴う確認調査及び工事立会：**平成23年10月、株式会社高橋ハウジングより、分譲住宅造成に伴う埋蔵文化財の照会があった。当地は、平成22年5月に確認調査を実施した場所に隣接していることから、開発計画に先立ち埋蔵文化財の取り扱いについて協議をする必要があることを伝えた。10月11日、事前に必要書類（法93条届出）、確認調査依頼書が提出された。10月24日付で開発者側から安中市地域開発委員会へ計画協議書が提出された。このことについて、意見書を通じて埋蔵文化財の確認調査を実施するための事前調整を行うことで回答した。12月19・20日に市教委が確認調査を実施した。確認調査は、道路部分を対象とし、2ヵ所のトレチを設定した。調査の結果、1トレチでは、当初から予想された中ほの溝が確認された。首塚古墳北側周溝部分を対象としたトレチ調査では、周溝の痕跡を確認し、市史の調査と同様、周溝の範囲が確認できないほど浅いことが判断した。宅地部分は、掘削による影響は小さく、全体的に保護層が保てるまで盛土を行うため、現状保存の措置を講じた。道路部分については、遺構の性格を把握するための必要な記録を作成した。道路の構造上、遺構への影響は小さく、対象範囲が狭小であることから、首塚古墳への影響が懸念される部分については、工事立会を平成24年1月30日に実施した（周溝のみ確認し、現状保存の措置とした）。

**資料整理・報告書作成：**資料整理は、確認調査終了後、断続的に実施し、平成23年度に遺構図修正・作成、遺物水洗・注記・逆別・実測・トレス・観察表作成、写真整理、報告書閲覧版作成等を行った。報告書編集には、効率化を図るためにパソコンを使用した。

## II 遺跡の地理的・歴史的環境

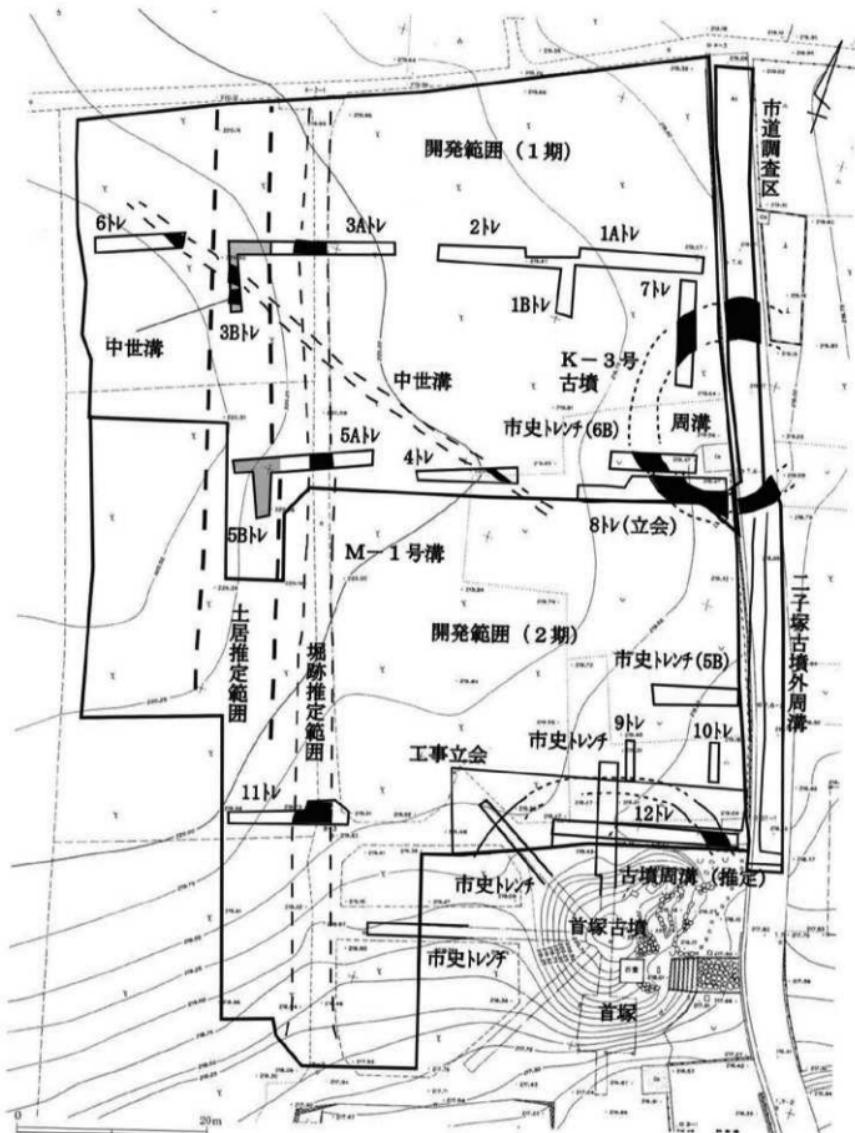
八幡平遺跡は、安中市築瀬字八幡平地内に所在する。本遺跡は、碓氷川と九十九川に挟まれた中位段丘（原市・安中台地）に立地し、南側は、碓氷川の河岸段丘に面している。標高は、219～220mである。

本遺跡は、周知の埋蔵文化財包蔵地市No330（縄文・古墳・平安）、築瀬二子塚古墳（市No:1092）、八幡平陣城（市No:1517）として遺跡台帳に登録されている。本遺跡周辺では、縄文時代後期の炉跡を検出した「築瀬炉跡」、横穴式石室をもつ6世紀初頭の前方後円墳である築瀬二子塚古墳（原市13号墳）、6世紀後半の首塚古墳（原市12号墳）、中世の八幡平首塚、八幡平陣城が存在する。築瀬二子塚古墳及び首塚古墳は、市史編纂事業に伴う学術調査を平成7～9年度に実施し、平成12年度には、市道建設に伴う周溝部分を対象とする発掘調査を実施した。また、平成11年度には、市道用地を対象とした確認調査を実施した。この調査結果をもとに平成15年度に築瀬炉跡に隣接する八幡平II遺跡の発掘調査を実施し、縄文時代中後期の配行遺構を確認した。



- 1 八幡平道路（本報告：後期古墳・中世溝）  
 2 八幡平II道路（篠文に後期集落）  
 3 首塚古墳（後期古墳）・首塚（中世）  
 4 築瀬二子塚古墳（後期古墳）  
 5 清水I～VI道路（篠文・古代集落・中世土器生産）  
 6 栄名業師道路（弥生後期・古墳後期集落）  
 7 高根道路（弥生後期・古墳後期集落・後期古墳）  
 8 小鹿道路（本報告：古代遺構・中世溝）  
 9 安中17号墳（本報告：後期古墳）  
 10 土井道路（古墳中期・古代集落）  
 11 木目道路（古代集落・焼印出土）  
 12 上野尻道路（推定東山道駅路・中世溝）  
 13 懸通東道路（終末期古墳）  
 14 塩ノ保道路（中世古墳）  
 15 田中田・久保田道路（古墳前期遺構）  
 16 向山道路（本報告：古代区画溝）  
 17 長谷津道路（弥生中後期・古墳集落）  
 18 磐部道路（中世）  
 19 文殊寺の堀（中世）  
 20 尾崎屋敷（中世）  
 21 座光寺館（中世）  
 22 海山城（中世）  
 23 郡原西城（中世）  
 24 八幡平陣城（中世）  
 25 原市城（中世）  
 26 原市東館（中世）  
 27 墓下堀（中世）  
 28 茂木東館（中世）  
 29 九十九川流域（古代水田）

第1図 調査遺跡の位置と周辺遺跡分布（国土地理院1/25000「松井田」・「富岡」）



第2図 八幡平遺跡のトレンチ・造構配置図

### III 遺構と遺物

#### 1 調査の概要

##### 平成3年度調査

該当地は、聚瀬二子塚古墳の西廻部分に相当する。発掘調査では、南西側及び東西方に延びる外周溝を確認した。また、調査区北側では、外周溝とほぼ直交して重複する浅い溝(追跡)を確認し、聚瀬二子塚古墳に関係する付帯施設の可能性(安中市史2001)が考えられたが、平成22年度の確認調査で、別の古墳の周溝であったことが判明した。遺物は、埴輪片が多数出土した。

##### 平成22年度調査

該当地は、八幡平陣城及び聚瀬二子塚古墳西廻に相当する。宅地造成地点(1~7トレンチ)、工事立会地点(8トレンチ)、個人住宅地点(9・10トレンチ)である。トレンチによる確認調査の結果、古墳(K-3号古墳)、八幡平陣城の堀(溝)と推定される遺構(M-1号溝)、中世溝2条を確認した。

1 Aトレンチ：市道に隣接する部分である。調査では、Ⅲ層及びその下層(IV層)からは、遺構は検出されなかった。Ⅲ層までの深さは、地表下30~40cmである。縄文土器片(加曾利E3式期)6点出土。

1 Bトレンチ：市史調査で確認された中世溝の延長線上であったが、遺構は検出されなかった。Ⅲ層までの深さは、地表下30センチである。

2トレンチ：市史調査で確認された中世溝の延長線上と予想される部分であったが、遺構は検出されなかった。さらに下層(IV層)においても遺構は、検出されなかった。Ⅲ層までの深さは、地表下30~40cmであり、耕作等による擾乱が著しい。

3 Aトレンチ：現況図では、区画された部分である。調査では、この部分に堀跡が検出された。さらに西側では、地表下20cmのところでIIa層上でロームを含む盛り上がりが確認された。しかし、耕作等による擾乱が著しく遺存状況は極めて悪く、部分的に残る。検出した堀跡は、浅間A軽石を含む耕作上及び搅乱層で覆われており、覆土中位に浅間A軽石の純層が堆積する。堀の確認面は、地表下30~40cmのところで、底面までは230cmに達する。

堀跡の形態は、断面V字状の「薙研堀」に分類される。西側部分は、浅間B軽石混入上部の盛り土からの掘り込みを確認でき、土層堆積状況から中世の所産である。時期の下限を調査するため、断面を掘り下げたが、Ⅲ層においても削平及び擾乱が及んでいたため、現時点では、掘削年代の下限は不明である。縄文土器片(加曾利E3式期)1点、中世陶器1点出土。

3 Bトレンチ：堀跡内側に相当する土堀跡と考えられる盛り土跡を確認した。上部は削平もしくは擾乱によって状況は不明であったが、痕跡が広範囲にあるものと予想される。

また、地表下30~40cmで覆土が浅間B軽石の混入土である溝を確認した。また、この溝と重複するローム混じりの盛り上で覆われた箇所を検出した。

4トレンチ：トレンチ東角で地表下30~40cmで覆土が浅間B軽石の混入土である溝を確認した。耕作及び擾乱が著しく、Ⅲ層の一帯まで及んでおり、他には遺構は検出されなかった。縄文土器片(関山式期1点・加曾利E3式期5点)、埴輪片1点出土。

5 Aトレンチ：3 Aトレンチで確認した堀跡及び土堀跡の続きを確認した。上層及び形状から同一であることが判明した。

**5 B トレンチ**：堀跡内側の土壘跡を確認したが、耕作及び搅乱が著しく遺存状態は3 B トレンチと同様悪い。地表下20cmで確認した。埴輪片1点出土。

**6 トレンチ**：分譲地であるため、直接工事の影響を受ける場所ではないが、3 A 及び5 A トレンチで確認した遺構とは別に、堀跡が存在するかについて調査を実施した。トレンチ東角では、覆土が浅間B 軽石の混入土である溝を確認した。このトレンチでは、II a 層が確認できたが、城館跡に關係する遺構及び盛り土の痕跡は確認できなかった。埴輪片1点、結晶片岩礫1点出土。

なお、3 B、4、6 トレンチで確認した中世の溝は、遺構の走向から判断して同一遺構と推定される。また、市史調査で確認された溝と走向が一致することから、これらとの関連性が考えられる。

**7 トレンチ**：古道に隣接する部分で、市道調査において検出された遺構の続きを確認するために調査を実施した。調査では、地表下30~50cmのところで浅間B 軽石の純層が検出され、断面観察によってレンズ状堆積し、III層中から20cm前後の標、埴輪片が出土した。埴輪の年代は、築瀬二子塚古墳とほぼ同時期である。市道調査で確認された遺構と同一である。埴輪片多数出土。

このトレンチの調査によって、市史で調査した6 B トレンチで検出された中世の道路状遺構と考えられていた溝は、遺構及び覆土の状態から7 トレンチ及び市道調査で確認された遺構と同一である可能性があり、全ての遺構の配置状況をつなげると円形になることも判明した。

**8 トレンチ（立会地点）**：7 トレンチで確認された古墳周溝の続きを調査した。周溝内から、多数の瓦石、埴輪、須恵器残基が出土した。土層の堆積状況から、原位置から遊離し、流れ込みによるものと判断される。埴輪の年代から推測して、築瀬二子塚古墳とほぼ同時期あるいはそれ以降に構築された古墳と考えられる。7・8 トレンチの調査によって平成3年度調査に確認した遺構が、築瀬二子塚古墳の周溝で周辺に重複する古墳が存在していたことが判明した。

#### 平成23年度調査

確認調査では、首塚古墳の周溝部分、八幡平陣城の堀と推定される遺構を確認した。

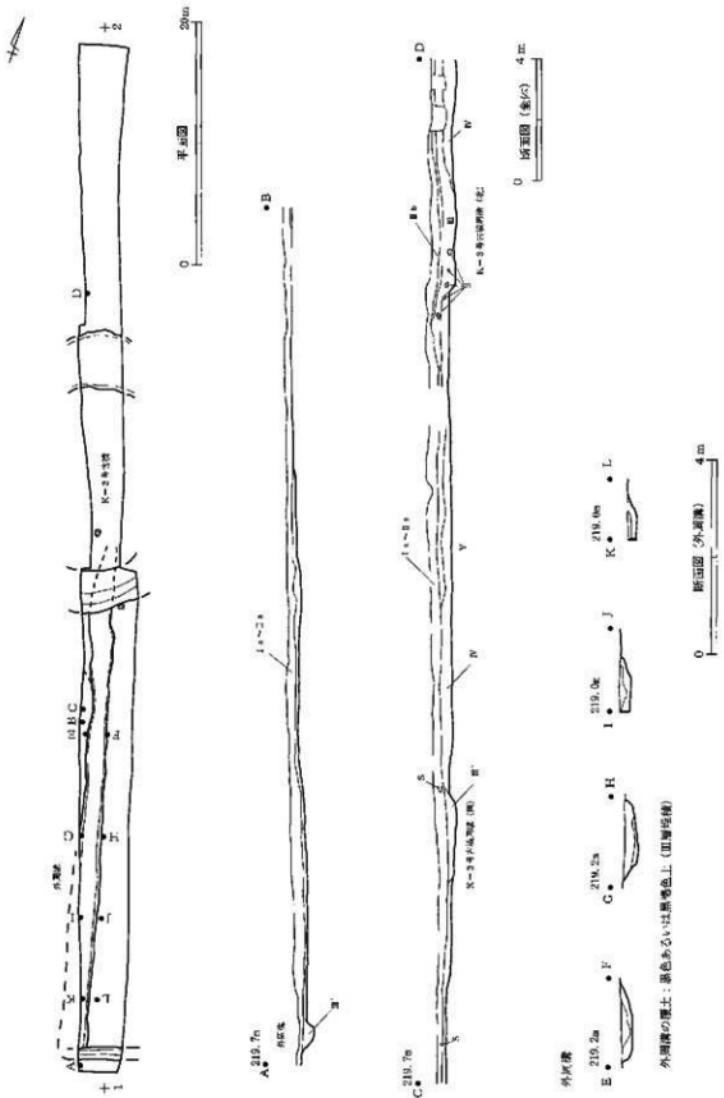
**9・10 トレンチ（個人宅造地點1・2 トレンチ）**：首塚古墳の北側に相当する。当初、周溝の存在が予想されたが、遺構・遺物は確認されなかった。対象地には市史5 B トレンチが存在する（遺構・遺物なし）。

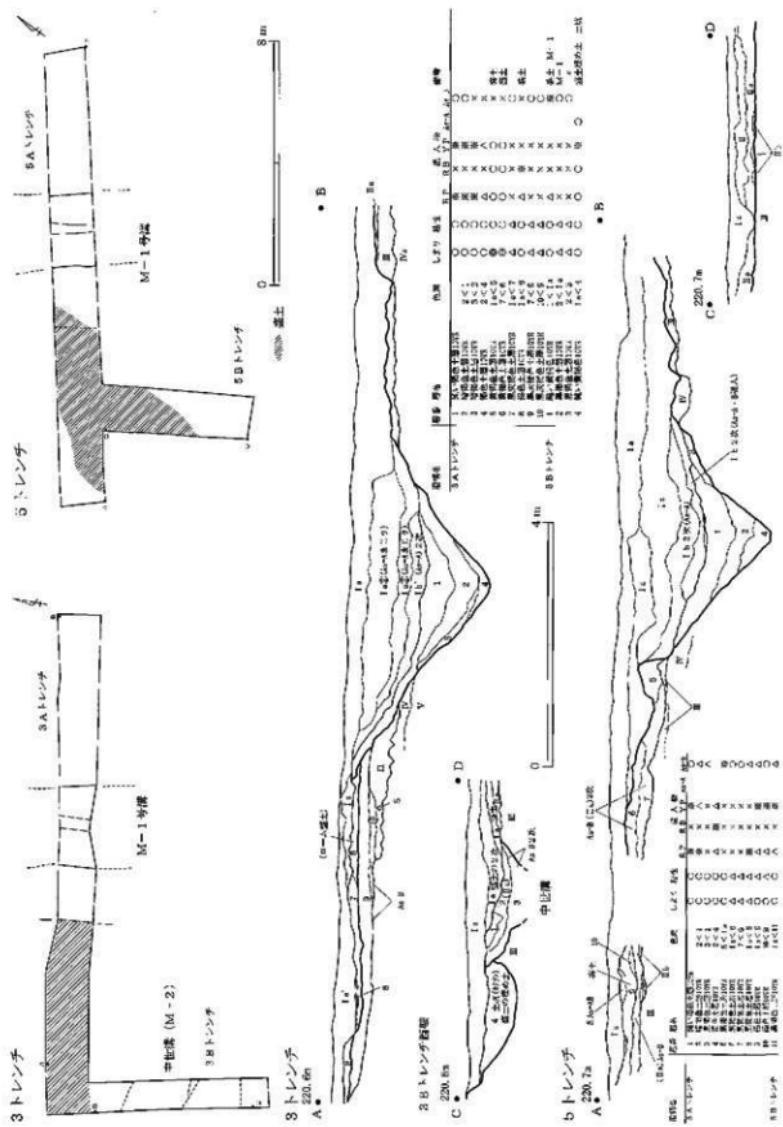
**11 トレンチ**：八幡平陣城堀跡の推定ラインに位置する。調査では、3・5 トレンチで確認された溝を検出した。溝は、II b 層から掘り込まれ、浅間A 軽石及びその混入土によって埋め戻されていた。

**12 トレンチ**：首塚古墳の周溝北側に位置する。市史編纂による学術調査でトレンチ調査を実施し、周溝が確認されているが、調査では、浅間B 軽石層（II b 層）の純層を確認し、その下部にIII層及びIV層の二次的堆積（埴丘の盛りか）を確認した。周溝と予想される部分については、トレンチ西側で周溝と推定される落ち込みが確認できたが、西側部分では、明確な周溝の範囲は確認できなかった。これにより、首塚古墳の周溝は、範囲が明確にならないほどの浅い構造であったことが明らかとなった。浅間B 軽石層（II b 層）下までの深さは、地表下30~80cmである。

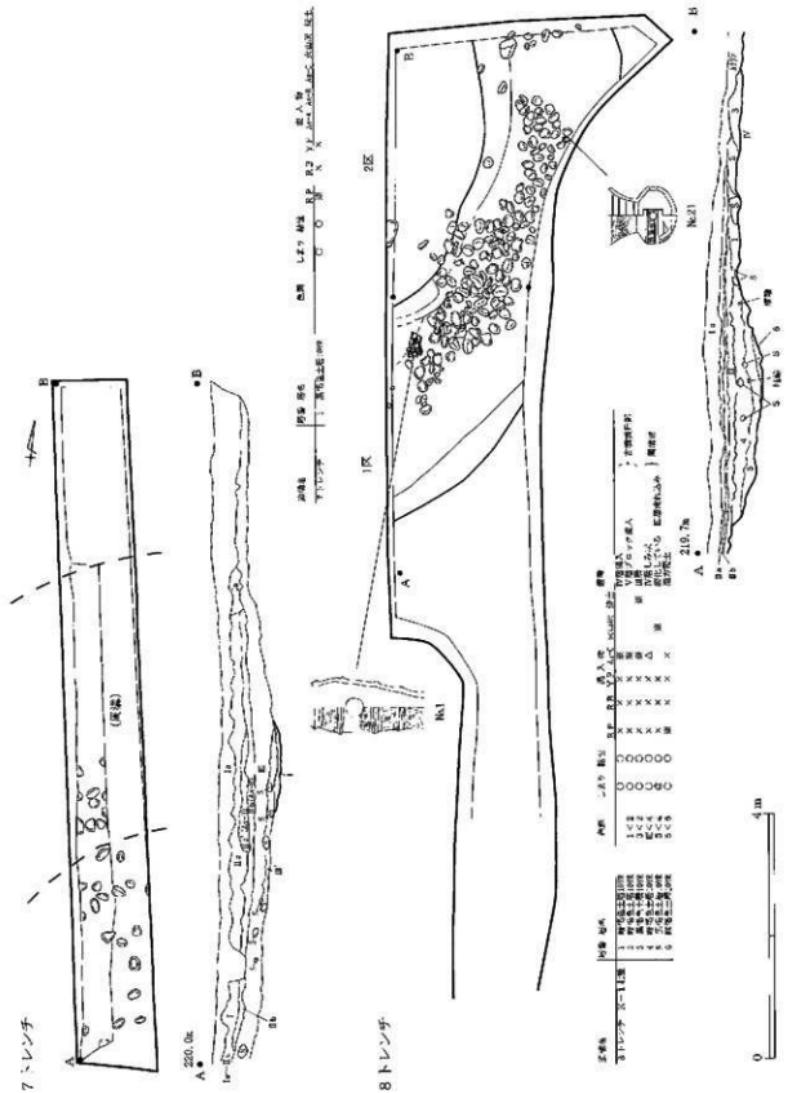
**工事立会地点**：平成24年1月30日に首塚古墳周溝部分を対象とした工事立会を実施した。立会では、周溝の存在を示すと思われる浅間B 軽石層が帶状に確認された。今回の工事においては、遺構確認面以下の掘削は行わず、遺構の保護は可能であることから、現状保存の措置とした。

第3図 八幡平道路 市道部分断面測量図





第四図 八幡平運動 3・5トレンチ遺構実測図



第5図 八幡平遭跡 7・8トレーン子遺構実測図

11トレンチ

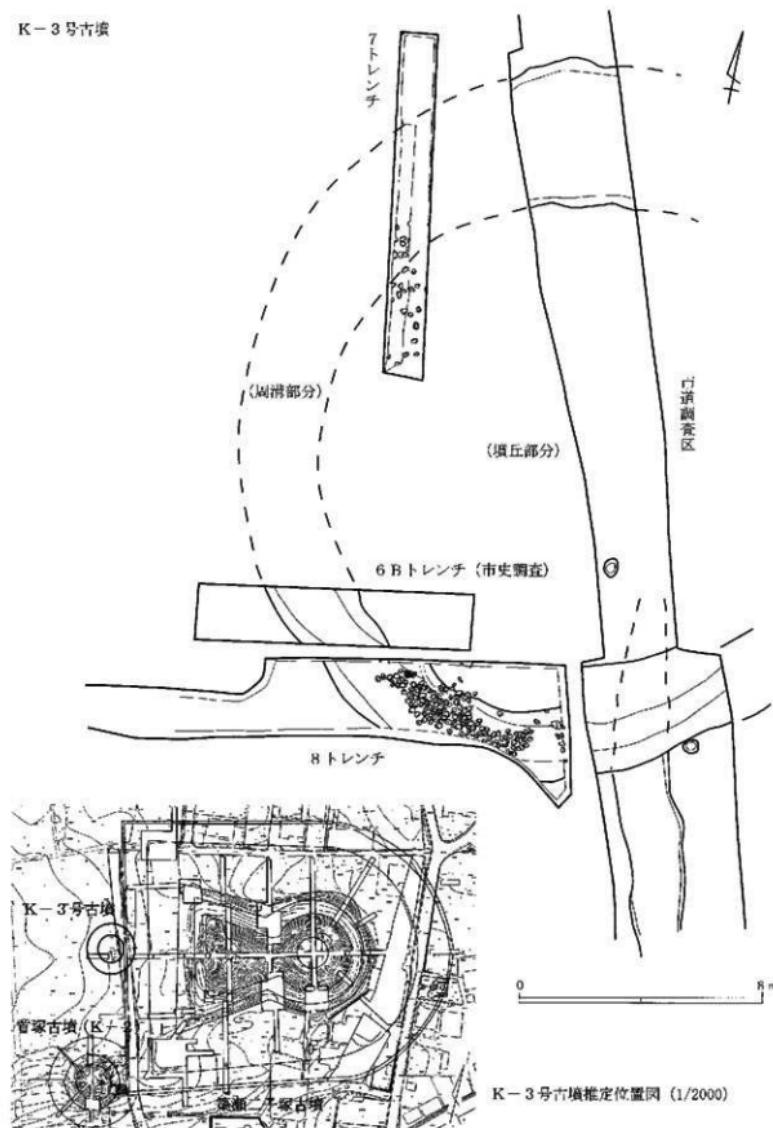
217.6m



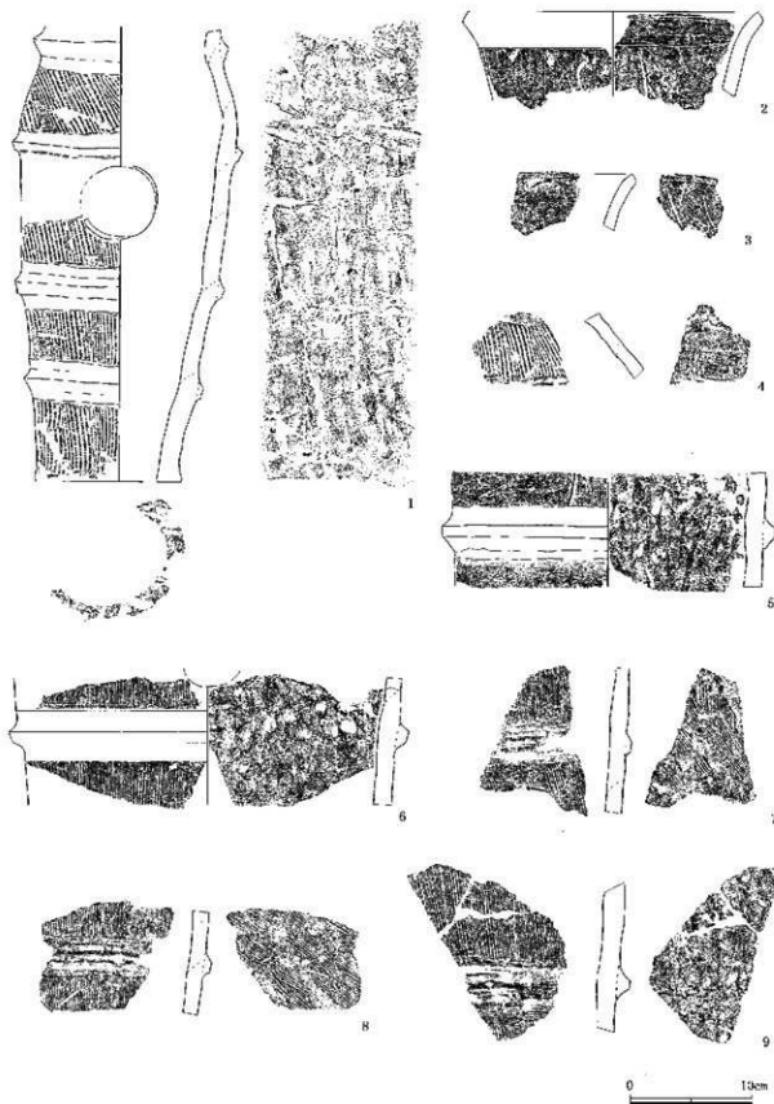
	218.5	218.3	218.1	217.9	217.7	217.5	217.3	217.1	216.9	216.7	216.5	216.3	216.1	215.9	215.7	215.5	215.3	215.1	214.9	214.7	214.5	214.3	214.1	213.9	213.7	213.5	213.3	213.1	212.9	212.7	212.5	212.3	212.1	211.9	211.7	211.5	211.3	211.1	210.9	210.7	210.5	210.3	210.1	209.9	209.7	209.5	209.3	209.1	208.9	208.7	208.5	208.3	208.1	207.9	207.7	207.5	207.3	207.1	206.9	206.7	206.5	206.3	206.1	205.9	205.7	205.5	205.3	205.1	204.9	204.7	204.5	204.3	204.1	203.9	203.7	203.5	203.3	203.1	202.9	202.7	202.5	202.3	202.1	201.9	201.7	201.5	201.3	201.1	200.9	200.7	200.5	200.3	200.1	199.9	199.7	199.5	199.3	199.1	198.9	198.7	198.5	198.3	198.1	197.9	197.7	197.5	197.3	197.1	196.9	196.7	196.5	196.3	196.1	195.9	195.7	195.5	195.3	195.1	194.9	194.7	194.5	194.3	194.1	193.9	193.7	193.5	193.3	193.1	192.9	192.7	192.5	192.3	192.1	191.9	191.7	191.5	191.3	191.1	190.9	190.7	190.5	190.3	190.1	189.9	189.7	189.5	189.3	189.1	188.9	188.7	188.5	188.3	188.1	187.9	187.7	187.5	187.3	187.1	186.9	186.7	186.5	186.3	186.1	185.9	185.7	185.5	185.3	185.1	184.9	184.7	184.5	184.3	184.1	183.9	183.7	183.5	183.3	183.1	182.9	182.7	182.5	182.3	182.1	181.9	181.7	181.5	181.3	181.1	180.9	180.7	180.5	180.3	180.1	179.9	179.7	179.5	179.3	179.1	178.9	178.7	178.5	178.3	178.1	177.9	177.7	177.5	177.3	177.1	176.9	176.7	176.5	176.3	176.1	175.9	175.7	175.5	175.3	175.1	174.9	174.7	174.5	174.3	174.1	173.9	173.7	173.5	173.3	173.1	172.9	172.7	172.5	172.3	172.1	171.9	171.7	171.5	171.3	171.1	170.9	170.7	170.5	170.3	170.1	169.9	169.7	169.5	169.3	169.1	168.9	168.7	168.5	168.3	168.1	167.9	167.7	167.5	167.3	167.1	166.9	166.7	166.5	166.3	166.1	165.9	165.7	165.5	165.3	165.1	164.9	164.7	164.5	164.3	164.1	163.9	163.7	163.5	163.3	163.1	162.9	162.7	162.5	162.3	162.1	161.9	161.7	161.5	161.3	161.1	160.9	160.7	160.5	160.3	160.1	159.9	159.7	159.5	159.3	159.1	158.9	158.7	158.5	158.3	158.1	157.9	157.7	157.5	157.3	157.1	156.9	156.7	156.5	156.3	156.1	155.9	155.7	155.5	155.3	155.1	154.9	154.7	154.5	154.3	154.1	153.9	153.7	153.5	153.3	153.1	152.9	152.7	152.5	152.3	152.1	151.9	151.7	151.5	151.3	151.1	150.9	150.7	150.5	150.3	150.1	149.9	149.7	149.5	149.3	149.1	148.9	148.7	148.5	148.3	148.1	147.9	147.7	147.5	147.3	147.1	146.9	146.7	146.5	146.3	146.1	145.9	145.7	145.5	145.3	145.1	144.9	144.7	144.5	144.3	144.1	143.9	143.7	143.5	143.3	143.1	142.9	142.7	142.5	142.3	142.1	141.9	141.7	141.5	141.3	141.1	140.9	140.7	140.5	140.3	140.1	139.9	139.7	139.5	139.3	139.1	138.9	138.7	138.5	138.3	138.1	137.9	137.7	137.5	137.3	137.1	136.9	136.7	136.5	136.3	136.1	135.9	135.7	135.5	135.3	135.1	134.9	134.7	134.5	134.3	134.1	133.9	133.7	133.5	133.3	133.1	132.9	132.7	132.5	132.3	132.1	131.9	131.7	131.5	131.3	131.1	130.9	130.7	130.5	130.3	130.1	129.9	129.7	129.5	129.3	129.1	128.9	128.7	128.5	128.3	128.1	127.9	127.7	127.5	127.3	127.1	126.9	126.7	126.5	126.3	126.1	125.9	125.7	125.5	125.3	125.1	124.9	124.7	124.5	124.3	124.1	123.9	123.7	123.5	123.3	123.1	122.9	122.7	122.5	122.3	122.1	121.9	121.7	121.5	121.3	121.1	120.9	120.7	120.5	120.3	120.1	119.9	119.7	119.5	119.3	119.1	118.9	118.7	118.5	118.3	118.1	117.9	117.7	117.5	117.3	117.1	116.9	116.7	116.5	116.3	116.1	115.9	115.7	115.5	115.3	115.1	114.9	114.7	114.5	114.3	114.1	113.9	113.7	113.5	113.3	113.1	112.9	112.7	112.5	112.3	112.1	111.9	111.7	111.5	111.3	111.1	110.9	110.7	110.5	110.3	110.1	109.9	109.7	109.5	109.3	109.1	108.9	108.7	108.5	108.3	108.1	107.9	107.7	107.5	107.3	107.1	106.9	106.7	106.5	106.3	106.1	105.9	105.7	105.5	105.3	105.1	104.9	104.7	104.5	104.3	104.1	103.9	103.7	103.5	103.3	103.1	102.9	102.7	102.5	102.3	102.1	101.9	101.7	101.5	101.3	101.1	100.9	100.7	100.5	100.3	100.1	99.9	99.7	99.5	99.3	99.1	98.9	98.7	98.5	98.3	98.1	97.9	97.7	97.5	97.3	97.1	96.9	96.7	96.5	96.3	96.1	95.9	95.7	95.5	95.3	95.1	94.9	94.7	94.5	94.3	94.1	93.9	93.7	93.5	93.3	93.1	92.9	92.7	92.5	92.3	92.1	91.9	91.7	91.5	91.3	91.1	90.9	90.7	90.5	90.3	90.1	89.9	89.7	89.5	89.3	89.1	88.9	88.7	88.5	88.3	88.1	87.9	87.7	87.5	87.3	87.1	86.9	86.7	86.5	86.3	86.1	85.9	85.7	85.5	85.3	85.1	84.9	84.7	84.5	84.3	84.1	83.9	83.7	83.5	83.3	83.1	82.9	82.7	82.5	82.3	82.1	81.9	81.7	81.5	81.3	81.1	80.9	80.7	80.5	80.3	80.1	79.9	79.7	79.5	79.3	79.1	78.9	78.7	78.5	78.3	78.1	77.9	77.7	77.5	77.3	77.1	76.9	76.7	76.5	76.3	76.1	75.9	75.7	75.5	75.3	75.1	74.9	74.7	74.5	74.3	74.1	73.9	73.7	73.5	73.3	73.1	72.9	72.7	72.5	72.3	72.1	71.9	71.7	71.5	71.3	71.1	70.9	70.7	70.5	70.3	70.1	69.9	69.7	69.5	69.3	69.1	68.9	68.7	68.5	68.3	68.1	67.9	67.7	67.5	67.3	67.1	66.9	66.7	66.5	66.3	66.1	65.9	65.7	65.5	65.3	65.1	64.9	64.7	64.5	64.3	64.1	63.9	63.7	63.5	63.3	63.1	62.9	62.7	62.5	62.3	62.1	61.9	61.7	61.5	61.3	61.1	60.9	60.7	60.5	60.3	60.1	59.9	59.7	59.5	59.3	59.1	58.9	58.7	58.5	58.3	58.1	57.9	57.7	57.5	57.3	57.1	56.9	56.7	56.5	56.3	56.1	55.9	55.7	55.5	55.3	55.1	54.9	54.7	54.5	54.3	54.1	53.9	53.7	53.5	53.3	53.1	52.9	52.7	52.5	52.3	52.1	51.9	51.7	51.5	51.3	51.1	50.9	50.7	50.5	50.3	50.1	49.9	49.7	49.5	49.3	49.1	48.9	48.7	48.5	48.3	48.1	47.9	47.7	47.5	47.3	47.1	46.9	46.7	46.5	46.3	46.1	45.9	45.7	45.5	45.3	45.1	44.9	44.7	44.5	44.3	44.1	43.9	43.7	43.5	43.3	43.1	42.9	42.7	42.5	42.3	42.1	41.9	41.7	41.5	41.3	41.1	40.9	40.7	40.5	40.3	40.1	39.9	39.7	39.5	39.3	39.1	38.9	38.7	38.5	38.3	38.1	37.9	37.7	37.5	37.3	37.1	36.9	36.7	36.5	36.3	36.1	35.9	35.7	35.5	35.3	35.1	34.9	34.7	34.5	34.3	34.1	33.9	33.7	33.5	33.3	33.1	32.9	32.7	32.5	32.3	32.1	31.9	31.7	31.5	31.3	31.1	30.9	30.7	30.5	30.3	30.1	29.9	29.7	29.5	29.3	29.1	28.9	28.7	28.5	28.3	28.1	27.9	27.7	27.5	27.3	27.1	26.9	26.7	26.5	26.3	26.1	25.9	25.7	25.5	25.3	25.1	24.9	24.7	24.5	24.3	24.1	23.9	23.7	23.5	23.3	23.1	22.9	22.7	22.5	22.3	22.1	21.9	21.7	21.5	21.3	21.1	20.9	20.7	20.5	20.3	20.1	19.9	19.7	19.5	19.3	19.1	18.9	18.7	18.5	18.3	18.1	17.9	17.7	17.5	17.3	17.1	16.9	16.7	16.5	16.3	16.1	15.9	15.7	15.5	15.3	15.1	14.9	14.7	14.5	14.3	14.1	13.9	13.7	13.5	13.3	13.1	12.9	12.7	12.5	12.3	12.1	11.9	11.7	11.5	11.3	11.1	10.9	10.7	10.5	10.3	10.1	9.9	9.7	9.5	9.3	9.1	8.9	8.7	8.5	8.3	8.1	7.9	7.7	7.5	7.3	7.1	6.9	6.7	6.5	6.3	6.1	5.9	5.7	5.5	5.3	5.1	4.9	4.7	4.5	4.3	4.1	3.9	3.7	3.5	3.3	3.1	2.9	2.7	2.5	2.3	2.1	1.9	1.7	1.5	1.3	1.1	0.9	0.7	0.5	0.3	0.1

第6図 八幡平遺跡 11・12トレンチ調査実測図

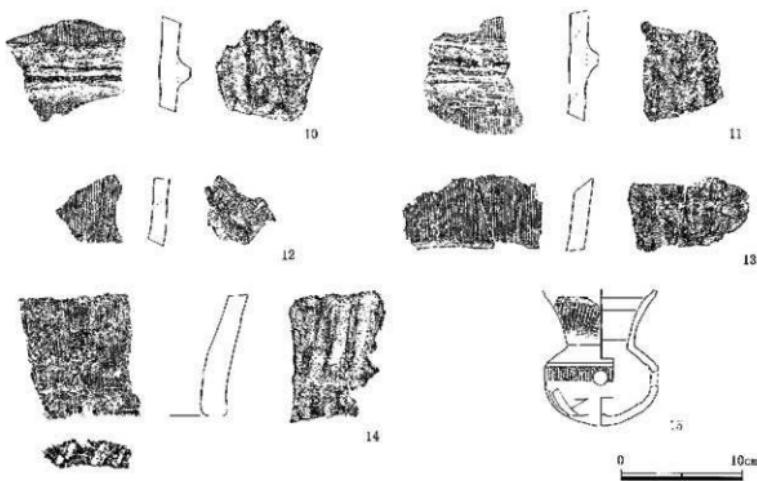
K-3号古墳



第7図 八幡平遺跡 K-3号古墳全体図



第8図 八幡平遺跡 K-3号古墳遺物実測図(1)



第9図 八幡平遺跡 K-3号古墳遺物実測図(2)

番号	出土箇所	器種	遺物	遺物(㎝)	①焼成・佐賀色・切妻上・④現存		成・整形成法の特徴	備考
					外好	内面		
1	K-3周縁 内1	円筒形埴輪	片岩(37.2) 最下20.5 二段目8.0 三段目11.0 底径:2.0 高さ:15.0 延長:8.0×6.5		①良好 ②焼成色 ③チャート・海縫骨 片岩・白色 ④焼成より上を火灼	外面 タチハケ (5~7木/2cm) 内面 施ナフ (ド), 上, 前部より上作は左側 方向の施ナフ	タチハケ 施ナフ	底面焼成
2	K-3周縁 内2	円筒形埴輪	片岩(24.0) 高さ:7.0		①良好 ②焼成色 ③砂礫・チャート・ 白色 ④焼成	外面 タチハケ (10~11木/2cm) 後, 口縫部 周辺に施ナフナナフ 内面 タチハケ (10~11木/2cm) 後, 11木部 周辺に施ナフナナフ	タチハケ	(U半呢?)
3	K-3周縁 2区	円筒形埴輪			①良好 ②焼成色 ③砂礫・白色粒 口縫部破片	外面 タチハケ (9~10木/2cm) 内面 施ナフ (下→上)		
4	K-3周縁 1区	円筒形埴輪			①良好 ②焼成色 ③砂礫・白色粒 口縫部	外面 タチハケ (9~7木/2cm) 内面 施ナフ		
5	K-3周縁 外作(27.4)	円筒形埴輪			①良好 ②焼成色 ③チャート・片岩 白色 ④焼成	外面 タチハケ (9~10木/2cm) 内面 施ナフ (下→上)		3第4段
6	K-3周縁 内筒埴輪				①良好 ②焼成色 ③砂礫・片岩 チャート・片岩骨 ④体縫破片	外面 タチハケ (10~11木/2cm) 内面 施ナフ (下→上), 指印痕多数		3第4条
7	K-3周縁 内筒20	円筒形埴輪			①良好 ②焼成色 ③砂礫・片岩・海縫 骨粒 ④体縫破片	外面 タチハケ (10~11木/2cm) 内面 タチハケ (10~11木/2cm)		
8	K-3周縁 内2	円筒形埴輪			①良好 ②焼成色 ③砂・片岩・青母 海縫骨粒 ④体縫破片	外面 タチハケ (10~11木/2cm) 内面 タチハケ, 浅トガ		
9	K-3周縁 2区	円筒形埴輪			①良好 ②焼成色 ③片岩・海縫骨 粒 ④体縫破片	外山 タチハケ (9~10木/2cm) 施ナフ (下→上)		底面焼成
10	K-3周縁 内筒	円筒形埴輪			①良好 ②焼成色 ③チャート・片岩 海縫骨粒 ④体縫破片	外面 タチハケ (9~10木/2cm) 内面 施ナフ (下→上)		
11	K-3周縁 1区	円筒形埴輪			①良好 ②焼成色 ③青安・海縫骨 片岩 ④体縫破片	外面 タチハケ (9~10木/2cm) 内面 施ナフ (下→上)		
12	K-3周縁 2区	円筒形埴輪			①良好 ②焼成色 ③砂・片岩・海縫 骨粒 ④体縫破片	外面 タチハケ (9~10木/2cm) 内面 施ナフ, 一部右端ハケ		
13	K-3周縁 1区	円筒形埴輪			①良好 ②焼成色 ③片岩・海縫骨 片岩 ④体縫破片	外面 タチハケ (9~10木/2cm) 内面 施ナフ (下→上)		
14	K-3周縁 2区	円筒形埴輪				外面 タチハケ (9~13木/2cm) 内面 施ナフ (下→上)		
15	K-3周縁 2区	須恵器 底	窓口11.1 口径5.4		①窓元 ②焼成色 ③海縫骨粒 ④口縫部 を火灼	外面 窓元ハシナフノ具の押出によると想われる ヒビの細かい日本文を施す。施地は縫隙次 第1表 八幡平遺跡 遺物観察表	M-T15窓行?	

## 2 遺構

### 築瀬二子塚古墳

市道部分で、外周溝の南北側及び古墳の西側範囲を確認した。

### 築瀬首塚古墳

古墳の北側周溝を確認した。周溝は浅く、掘り込みが明確ではないことが判明した。

### K-3号古墳

市道、市史トレント（6Bトレント）、確認調査（7・8トレント）で確認された円墳である。主体部は削平されていた。周溝の径から推測される直径は約20m、拳～人頭大の葺石および遺物はすべて転落した状態で検出された。遺物は、埴輪片及び須恵器が出土した。土層の堆積状況から原位置から遊離し、流れ込みによるものと判断される。須恵器の形態は、築瀬二子塚古墳より新しいものおよそMT15型式内に收まるものと思われ、築造年代は6世紀前半と考えられる。今回の調査によって、築瀬首塚古墳（6世紀後半）に加え本墳も築瀬二子塚古墳に接するようにつくられていたことが分かった。

### M-1号溝

3・5・11トレントで八幡平陣城に間連する溝を地割りに沿って1条検出した。溝は、兼研堤で、内側では土居の痕跡を確認した。

### 中世溝

3・4・6トレントで覆土に浅間B輕石を含む溝を1条検出した。上居を壙していることから、八幡平陣城より新しい遺構と考えられる。遺物は出土しなかった。

## 3 遺物

K-3号古墳の周溝から埴輪片、須恵器が出土した。埴輪片についてはすべて円筒・朝顔形埴輪（1-15）で、形象埴輪はなかった。図示資料以外も含め、破片の大半は底径の大きい（30cm以上）固体と思われ、また突等の特徴から築瀬二子塚古墳例と類似することから、流れ込みである可能性が高い。しかし、比較的残存率のよい小振りな3条4段朝顔形埴輪（1）は頸部より上に赤彩を施しており、赤彩の認められない築瀬首塚古墳例より古柄を示すと考えられ、本墳に伴うと考えられる。

周溝覆土中から出土した埴は築瀬二子塚古墳例と比較すると、口唇部は欠損するもののプロボーシヨンについて大差はないように思われる。しかし、副部の刺突文は明らかに簡素化しており、MT15型式内でもより新規を示すと考えられる。胎土には海綿骨針や細かい片岩を含み、焼成はやや軟質である。これらの特徴から藤岡産と考えられる。

## IV 成果と問題点

### 1 K-3号古墳について

今回発見されたK-3号古墳は、主体部はすでに削平され周溝のみの残存であったが、推定周溝ラインは篠瀬二子塚古墳の外周溝と重複する位置にある。調査範囲は部分的であり古墳東側の様相は分からぬが、あるいは篠瀬二子塚古墳に付帯する別区であった可能性も否定できない。しかし、出土遺物が少なく、また形象埴輪も見つかっていないことからひとまず、古墳としておきたい。

出土遺物の年代観から、本墳の築造時期はおよそ6世紀前半ごろと考えられる。南に隣接する首塚古墳は6世紀後半の築造と推定されることから、より古い（篠瀬二子塚古墳に近い）時期に篠瀬二子塚古墳と重複するような位置に小円墳が作られていたことになる。資料等の制約上、本墳の詳細な性格に踏み入ることはできないが、篠瀬二子塚古墳とその周辺について考える上で興味深い事例といえる。

### 2 八幡平陣城について

今回の確認調査では、3・5・11トレンチでは、八幡平陣城の堀と推定される地割りに沿って延びる同一の溝と土居が初めて確認された。陣城については、山崎一氏の踏査によって郷張り図が残されている（山崎1978『群馬県古城墨跡の研究』下巻）。遺構は、概ね、山崎氏の郷張り図に一致しており、今回の検証でその存在を明らかにすることができた。八幡平陣城は、永禄年間に武田氏が築いた砦と推定されている。溝の規模は、現状で上幅5.8m以上、下幅（底面）0.2mである。II a層の掘り込みが確認でき、覆土中位まで浅間A軽石（As-A）が堆積し、下位には、流れ込みによる浅間B軽石の混入土が堆積する。溝に接する西側（内側）では、ローム層の混入土で盛った土居（土壘）跡が確認された。断面形状から判断して外側の傾斜は緩く開き、内側の傾斜はやや急となる築垣堀であったと推定される。また、トレンチ及び溝内では、中世遺物は確認されなかった。今後は、中世遺構の性格を明らかにすると共に、隣接する首塚との関連性について検討していく必要がある。



第10図 八幡平遺跡と関連遺跡 (S=1/5000)

## 付編1 向山遺跡の確認調査

### 1 調査の経緯と経過

平成12年3月27日、日本移動通信株式会社（当時）より、携帯電話用中継基地局設置についての埋蔵文化財に関する照会があった。該当場所は、「礎部町3号墳」（現在は削平され所在地不明）の推定地内にあることから、埋蔵文化財の取り扱いについて協議を行い、開発に先立ち確認調査を実施することになった。平成12年4月3日付けで、確認調査の依頼があり、同年4月11日～4月14日までの間確認調査を実施した（調査担当：深町 真・井上慎也）。確認調査の結果、古墳は確認できなかったが、当地域で広く分布する古代牧に関連する区画溝の一部が検出された。しかし、確認調査の状況により、計画の変更が困難であること、遺構が部分的検出で、調査対象範囲も狭小であることから、検出された遺構の性格を把握するための必要な記録をとり、その場で記録保存の措置を講じた。

確認調査は、T字形試験坑の基準杭をもとに幅1mのトレンチを設定し、人力により遺構確認面まで土を削削した。その後、遺構確認面の精査では、トレンチ中央で遺構が確認され、検出状況から、区画溝の一部であることが判明し、遺構の性格を把握するための遺構精査を行い、写真撮影、平板による遺構測量、埋め戻しを行った。

### 2 遺跡の地理的・歴史的環境

向山遺跡は、安中市西上礎部字向山703番地1に所在する。碓氷川右岸の中位段丘（横野台地）の北側端部に立地する。標高は、259mである。遺跡地は、『上毛占墳縦覧』にある「礎部町3号墳」の推定地である。本遺跡の東側には、長谷津遺跡、西側には、礎部2号墳、加賀塚遺跡がある。また、横野台地一帯には、古代牧に関連する遺構群が区画溝を中心に分布する。

### 3 検出された遺構と遺物

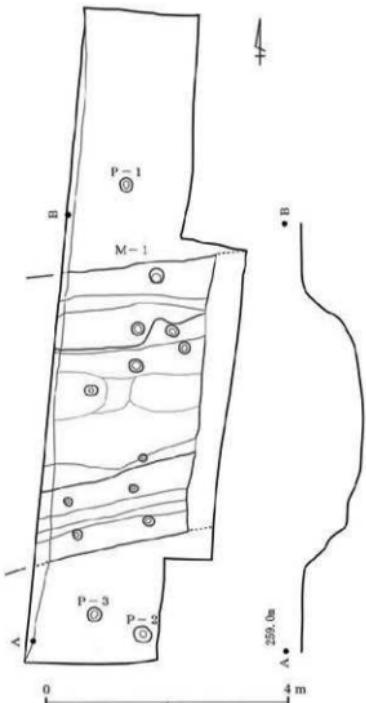
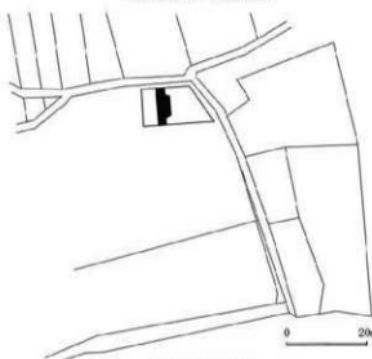
#### (1) 遺構

古代の溝（M-1号溝）は、横野台地一帯で確認されている牧に関連する区画施設と推定される。同一規模の遺構は、天神原遺跡（平成12年度調査地点）の道路部分で確認されており、南北に延びる。覆土中位に浅間B燧石が堆積する。

当初、予想された古墳の存在は、確認できなかった。

#### (2) 遺物

遺物は、覆土から縄文土器、螺が出上したが、遺構に関連する遺物は出土しなかった。



第11図 向山遺跡 遺構実測図

## 付編2 小峰遺跡の確認調査

### 1 調査の経緯と経過

平成20年8月22日、株式会社NTTドコモ群馬支社より、携帯電話アンテナ基地建設予定地の埋蔵文化財に関する照会があった。該当の場所は、周知の埋蔵文化財包蔵地（市街351）内にあることから、その取り扱いについて協議を行い、開発に先立ち確認調査を実施することになった。同年10月21日に確認調査の依頼があり、同年10月29日に工事予定地を対象とした確認調査を実施した（調査担当：井上慎也）。確認調査の結果、古代及び中世の溝が各1条検出され、周辺には、古代の集落、中世城館が存在する可能性が判明した。しかし、確認調査の状況により、工事予定地外においても遺跡地であり、計画の変更が実験であること、遺構が部分的検出で、調査対象範囲も狭小であることから、検出された遺構の性格を把握するための必要な記録をとり、その場で記録保存の措置を講じた。

確認調査は、工事設計図の基準区をもとに9m四方の工事予定地内で、幅1mのトレンチを設定し、ミニバックホーにより、表土を掘削し、人力による遺構確認を行った。トレンチ北側で、溝が検出されたため、測量範囲を拡張したところ、東側に1本別の溝が検出され、2本の溝が重複していることが判明した。これらの溝の性格を把握するために、その場で一部精査を行ったところ、覆土中から古代と中世の遺物が出土し、切り合ひ関係が認められたことから、2本の溝には時期差があることが明らかとなった。遺構精査終了後、「写真撮影、土層断面図作成、平板による遺構測量、埋め戻しを行った。資料整理は、調査終了後、断続的に実施し、遺構図作成、遺物実測図作成、写真整理、報告書図版作成等を行った。

### 2 遺跡の地理的・歴史的環境

小峰遺跡は、安中市高別当字小峰（登記名では「小峯」）1001番地に所在する。九十九川に面した中位段丘面（原市・安中台地）の舌状に張り出した北緩斜面に立地する。市街351は、耀文・豪生・平安時代・中世の包蔵地であり、古代の瓦塔片が出土している（高別当瓦塔）。遺跡周辺の標高は171～172mである。

### 3 検出された遺構と遺物

#### (1) 遺構

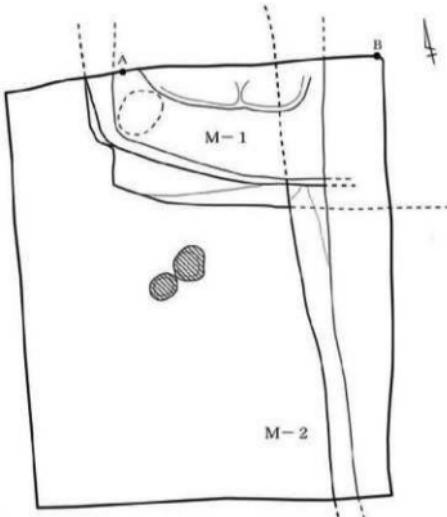
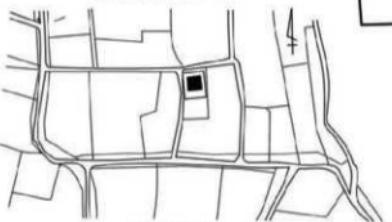
検出された遺構は、古代及び中世にそれぞれ歸属する溝2条である。M-1号溝は、ローム混じりの土で埋め戻されており、M-2号溝によって掘り返されている。部分的検出であるが、箱状と推定され、覆土から古代の土器が出土していることから、住居の可能性もある。M-2号溝は、覆土に複数B軽石が混入し、覆土上面は複数A軽石に覆われて確認された。覆土には中世の遺物が混入し、下部では人形蟲が出土した。地割りに沿って南北に延びている城館に関連する遺構と推定される。

#### (2) 遺物

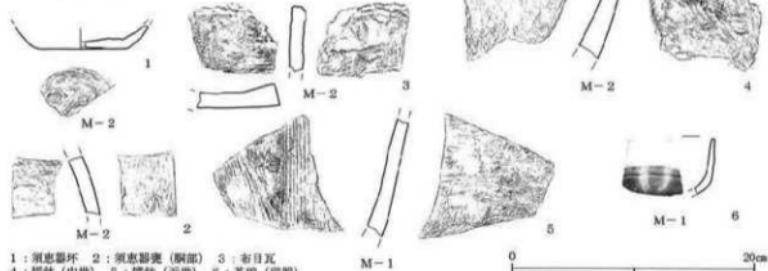
M-1号溝からは、英碗（磁器）1点、擂り鉢（陶器）1点、古代土師器焼片少數、礫2点が出土した。M-2号溝からは、須恵器环（底部）1点、須恵器甕1点、布目平瓦1点、擂り鉢（陶器）1点、板磚小破片3点（結晶片岩）、礫4点が出土した。



遺跡位置図 (1/5000)



遺跡名	遺構	遺物	人骨	動物骨
小峰遺跡	1. 横溝式排水溝 2. 縦溝式排水溝 3. 排水溝上部構造 4. 排水溝下部構造 5. 排水溝側壁 6. 壁面	1. 文字型 2. ローマ数字 3. ハンガリーパターン 4. ハンガリーパターン 5. ハンガリーパターン 6. ハンガリーパターン	X X X X X X X X X X X X	X X X X X X X X X X X X



1:須恵器壺 2:須恵器壺(胴部) 3:布目瓦  
4:指輪(中世) 5:擂鉢(近世) 6:茶碗(細器)

第12図 小峰遺跡 遺構・遺物実測図

## 付編3 安中17号墳の発掘調査

### 1 調査の経緯と経過

平成23年11月、開発者側より個人住宅建設工事にかかる埋蔵文化財の有無について照会があった。開発予定地は周知の遺跡である安中17号墳が存在しており、開発については当教育委員会との協議が必要であることを伝えた。その後、開発計画自体の変更及び見直しについて開発者側と協議を続けたが、見直しは困難であることから、事前に工事予定地内の遺構の状況を把握するための確認調査を実施することで開発者側と合意した。平成23年11月4日、開発者側から確認調査依頼及び必要書類（法93条届出、添付書類）が当教育委員会へ提出された。平成23年11月10日、確認調査を実施したところ、残存する墳丘下から石室側壁及び奥壁が検出され、開発者側にその旨を伝えた。平成23年11月22日、開発者側と埋蔵文化財の取り扱いについて再度協議を行った。工事計画は古墳墳丘及び石室を全て削平するものであるが、計画変更は不可能という結論に至り、記録保存を講ずることとなった。その際、発掘調査及びその後の措置等に関する覚書を開発者側と当教育委員会の間で交わした。

平成23年11月24～30日、発掘調査を実施し、横穴式石室の葬道及び玄室、床面を確認した（調査担当：菅原龍彦）。発掘調査終了後、資料整理を断続的に実施し、平成23年度に遺構区の修正・作成、遺物水洗・注記・選別・実測・トレース・觀察表作成、写真整理、報告書図版作成等を行った。

### 2 遺跡の地理的・歴史的環境

安中17号墳は安中市安中字藤山地内に所存する。本遺跡は九十九川と秋間川の合流点付近に位置し、西河川に挟まれた段丘上端部にある。遺跡の標高は約162mである。本墳の東約200mには、6世紀後半から7世紀代の築造と推定される円墳5基（小間古墳群）が集中する。本墳も出土遺物の年代観から6世紀後半の築造と考えられ、古墳群を構成する一つと思われる。また、本墳北西の丘陵斜面には裁石切組積石室で割室構成をもつ終末期古墳である、めおと塚古墳が立地する。7・8世紀代にかけて大規模な操業を行う須恵器・瓦窯及びその生産集団との関連が想定される古墳が集中する秋間丘陵からみて、本墳はその“入口”的な立地にあるといえよう。

### 3 検出された遺構と遺物

調査前の現状における本墳の墳丘は径約7mを測る。周辺地面より1mほど高く、葺石もしくは石室裏込めと考えられる大小の礫が散乱していた。調査は石室部分を中心に行った。主体部は南向きに開口する横穴式両袖型石室であるが、葬道から玄室に至るまで天井石は全て消失していたため、高さは不明である。また、盃掘により葬道側壁の一部が破壊されていた。石室を構成する石材は一見、裁石切組積に見えるが、壁面は面加工された自然石で積まれている。しかし、葬道と玄室の境にはL字形状に加工された石が用いられることから、一部切組積の手法が用いられているようである。石材は当地域の終末期古墳に多用される、いわゆる秋間石（安山岩質溶結凝灰岩）で、多くの石にノミ状の工具痕が認められる。石室の全長は現状で7.4mである。葬道長は3.6m、同奥幅1.2m、同前幅0.9mを測り、50～80cm幅の石材を小口・横積みの両方で積んでいた。壁面は横目地の通りを意識しているようである。入口及び奥部付近には、拳から人頭大の川原石が壁塞石として積まれていた。玄室長は3.8m、奥幅は

2.2mで入口付近の幅は1.6mを測る。狭道と異なり、幅1.2~2.2mの一枚岩で側壁を構成する。また、玄室の床には手前と奥を分けるかのように中央部付近に板石が立て並んでおり、中央部から奥壁側の床には板石、手前側には小標がそれぞれ敷かれていた。石室内は既に盗掘を受けた後であったが、奥壁寄りの床面から耳環、刀子、馬具(土金具、櫂)、小札、鉄釘、ガラス小豆などが出土した。また、墳丘・石室覆土中からは円筒・形象埴輪片が出土し、特に狭道入口付近からは盾形埴輪片が集中して出土した。以下、出土遺物の概要を述べる。

①耳環…2点出土している。鉄地金銅張で、2点とも径2.7cm、断面は5.5mmの円形を呈し、ほぼ同形であることから一对のものと考えられる。重量は耳環1が8.8g、耳環2は11.5gを測る。

②刀子…鋒化が激しく刃部、茎部とも端部を欠損する。残存長9.7cm。

③馬具…土金具は平面方形を呈し4釦を打つ。鋒化が激しく欠損部位も多いが、およそ3.2cm四方を測る。鉄地金銅張。櫂と思われる破片の残存長は6.7cm、環状部分はおよそ3×4cmで断面は6mmである。

④小札…小札は数点出土しているが、比較的残存状態の良い2点を図示した。小札1は残存長7cm、幅2.5cmで縫孔・綴孔などの打無は確認できない。小札2は残存長2.5cm、幅2.5cmを測り、4孔があげられる。

⑤ガラス小玉…種が鈍い十二面体で、色調は青紫色を呈す。長さ1.3cm、最大幅0.7cm。孔径は0.15cm(両端部のみ0.3cm)で気泡を多く含む。

⑥円筒埴輪…墳丘及び石室内覆土中から破片が出土したが、小片で図示できるものはなかった。色調は淡褐色～赤褐色を呈し、胎土には結晶片岩や海綿骨針、チャートなどを多量に含むことから藤岡陣埴輪と考えられる。外面はタテハケを施し、内面上部は斜ハケ、下部には指ナデを行う。底部調整は見当たらず、透孔形状は円形である。形態から2条3段構成と考えられる。

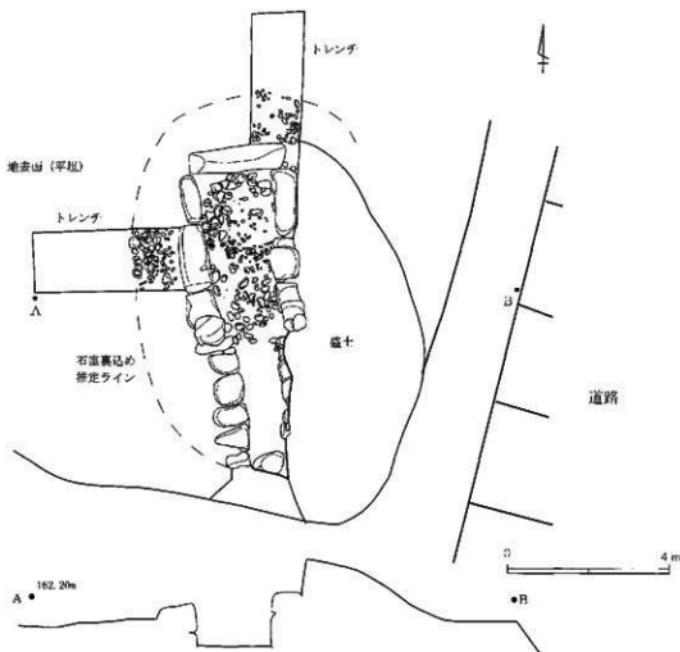
⑦形象埴輪…須弥および石室内覆土中から家形(入母屋造)、磐形、大刀形埴輪が出土した。また、石室入口付近で盾形埴輪が出土し、これは前庭部に立てられていた可能性がある。色彩・胎土は円筒埴輪と同様、藤岡陣と考えられる。このうち盾形埴輪は彼片部位の検討から、複数個体存在したと考えられる。盾形埴輪の残存高は約72cm。上辺と底辺付近を欠損する以外ほぼ復元できた。全体の形状から、上部は山形の長方形を呈し背部は円筒部につながっているものと推測される。両翼部は粘土板で成型し、円筒部に差し込んでいる。また、稜の緩やかな輪郭文を描き文強の沈線を錄取するように赤彩を施す。

#### 4 成果と問題点

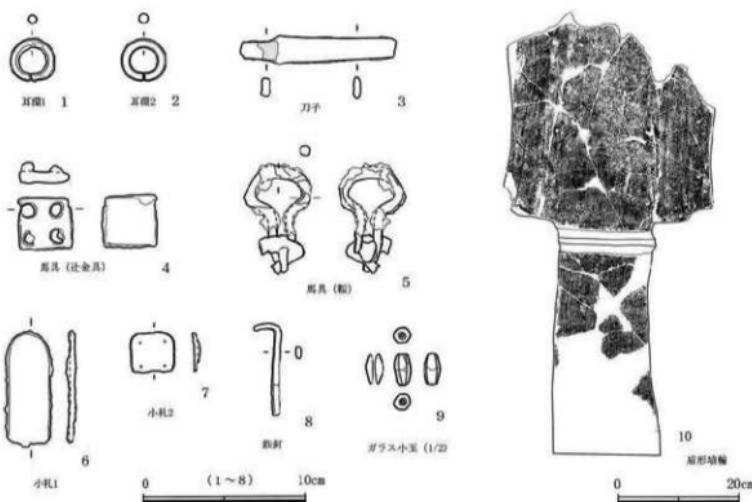
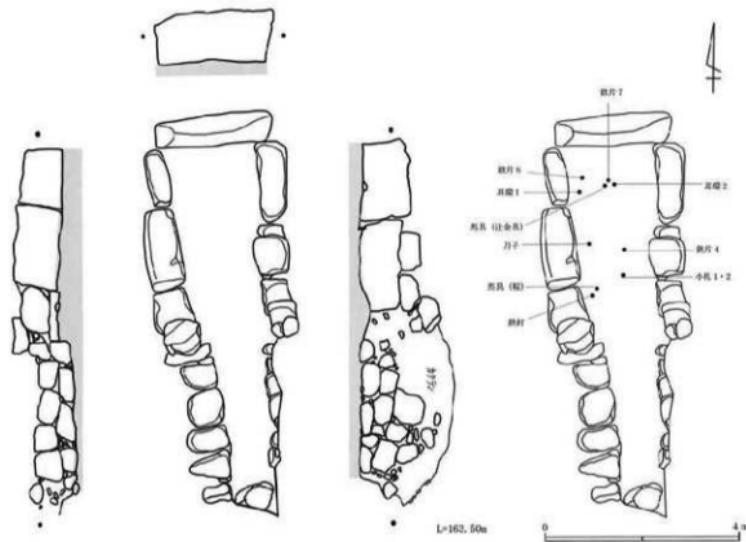
本墳の墓造時期は、出土埴輪の特徴からおよそ6世紀後半ごろと考えられる。石室の大きさから推定すると、墳丘は20m近い規模を行っていたと思われる。埴輪の種類の多さは当地域の同規模古墳の中でも際立っており、また、副葬品に馬具や武具を有する点も特筆される。これらの特徴に加え、石室も自然石乱石積でなく一部切組積と考えられることから、本墳の被葬者は小門古墳群中でも中核をなしていた人物であったと考えられる。当地域における6世紀後半の古墳の調査事例は少なく、一部とはいえて切組積を用いる本墳の存在は小門古墳群中、ひいては終末期の秋間地域における古墳築造の流行を考える上で重要なである。



安中 17 号墳の位置と周辺古墳 (1/5000)



第13図 安中17号墳 全体図



第14図 安中17号墳 石室実測図・遺物実測図

図版1



八幡平遺跡（C-7） 全景（右：築瀬二子塚古墳、下：首塚）



築瀬二子塚古墳 外周溝



K-3号古墳



外周溝とK-3号古墳周溝南側



K-3号古墳周溝北側と土層断面



2 レンチ



3 レンチ M-1号溝



3 レンチ M-1号溝土層断面



4 レンチ



5 レンチ M-1号溝



5 レンチ M-1号溝 土居痕跡



5 レンチ M-1号溝 土層断面



7 レンチ 古墳周溝

図版3



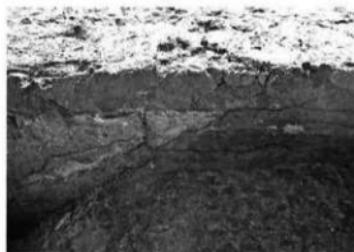
8トレンチ K-3号古墳周溝



11トレンチ M-1号溝



11トレンチ M-1号溝土層断面



11トレンチ M-1号溝掘り込み



12トレンチ 首塚古墳周溝



向山遺跡 M-1号溝



小峰遺跡 全景

図版 5



安中17号墳 全景（西より）



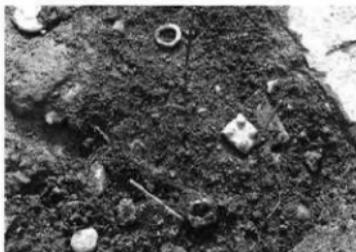
安中17号墳 石室（南より）



安中17号墳 石室側壁（ノミ痕）



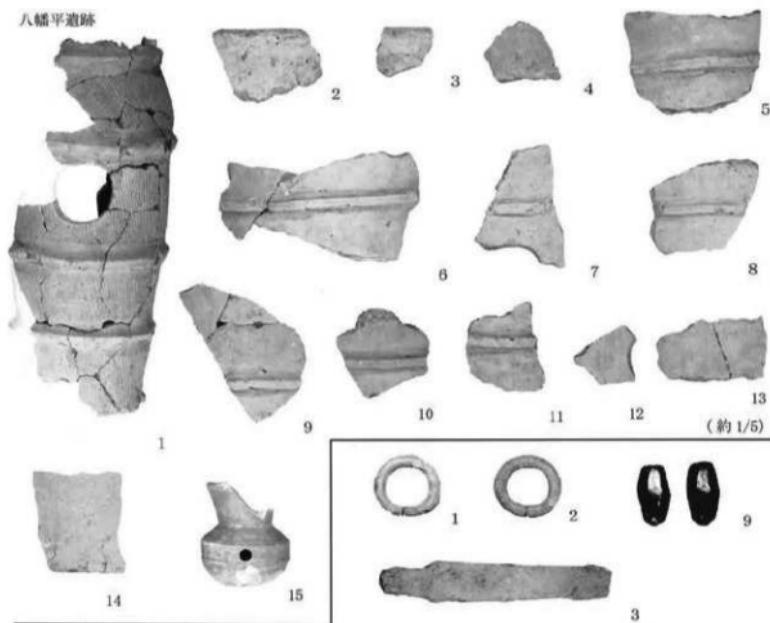
安中17号墳 玄室入口（石材加工状況）



安中17号墳 玄室遺物出土状況

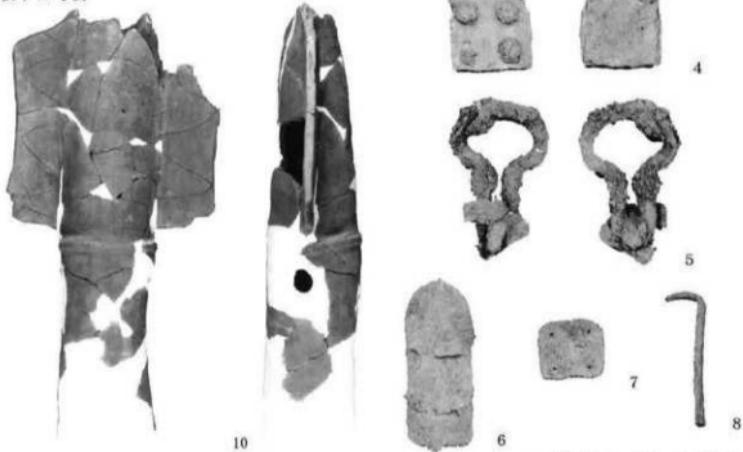
図版 6

八幡平遺跡



(約 1/5)

安中 17 号墳



(1 ~ 8 : 約 1/2、9 : 1/1、10 : 約 1/8)

# 発掘調査報告書 抄録

ふりがな	しないいせき いち ほちまんたいらいせき・むかいやまいせき・こみおいせき・あんなかじゅうななごふん						
書名	山内遺跡1 八幡平遺跡・向山遺跡・小峰遺跡・安中17号墳						
著者名							
巻次	1						
シリーズ番号							
編著者名	井上清・首藤龍彦						
編集機関	安中市教育委員会						
編集機関所在地	379-0292 群馬県安中市松井田町新堀245 TEL.027-382-1111						
発行年	西暦2012年(平成24年)3月26日						
所轄遺跡名	所在地	コード 市町村 委託番号	北緯 ***	東經 ***	調査期間	調査面積	調査原因
八幡平遺跡	安中市西山藏前字八幡平 769番地他	102113 C-7 C-24	36°18'38" 36°17'37"	138°51'29" 138°51'6"	1次19910910～ 19911009 2次20100510～ 20100514 20000411～ 20000414 20081029	340m <sup>2</sup> 170m <sup>2</sup> 30m <sup>2</sup> 40m <sup>2</sup> 25m <sup>2</sup>	市道建設 半耕造成 溝帯基地局 建設 埋帯基地地 盤設 個人住宅
向山遺跡	安中市西上藏前字向 山703番地1	P-6	36°17'37"	138°51'6"	20000411～ 20000414	30m <sup>2</sup>	溝帯基地局 建設
小峰遺跡	安中市高別当字小峰 1001番地	D-25	36°19'54"	138°57'1"	20081029	40m <sup>2</sup>	埋帯基地地 盤設
安中17号墳	安中市安中字諫山地 内	D-27	36°20'5"	138°53'19"	20111124～ 20111130	25m <sup>2</sup>	個人住宅
所轄遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
八幡平遺跡	古墳・城跡	绳文土器・古墳	古墳円墳・堤・周溝	绳文土器（前・中期）・埴輪（円筒・須恵器・縁）・中世陶器	須瀬二子塚古墳に接する 山地。中世八幡平跡 城の外郭を確認 牧製造の区山跡		
向山遺跡	生産	奈良・平安	溝	绳文土器 須恵器・土器窓・陶磁器（茶碗、 猪口等） 埴輪（馬形・円筒）、铁製品、耳環、 ガラス玉	中世城跡の可能性 横穴式石室		
小峰遺跡 安中17号墳	墓葬・城跡 占拠	奈良・平安・中世 近世 古墳後期	古墳・周溝	須恵器			
要約	八幡平遺跡の調査地山は、須瀬二子塚古墳の西側と八幡平跡城の中間に位置する。須瀬二子塚古墳と古墳の間に位置する川筋を確認。古墳内から埴輪片、須恵器が出土。古墳の築造年代は、須瀬二子塚古墳と古墳古墳との間の時期と推定される。須瀬古墳の周溝は、段・不明瞭な区画線は、段・不明瞭な区画線が下限付近で確認した。中世の八幡平跡城の経路が記載される跡構と内側の土居跡を確認。古墳に隣接する区画線の一部は確認され、古墳内から埴輪（馬形・円筒）、铁製品、耳環、ガラス玉が出土。6世紀後半の古墳。						

## 市内遺跡1

### 一八幡平遺跡・向山遺跡・小峰遺跡・安中17号墳

発行日 平成24年3月26日  
 編集・発行 安中市教育委員会  
 群馬県安中市松井田町新堀245  
 印刷 制印印刷工業株式会社  
 群馬県前橋市元総社町67